

TOPICS

第15回定時株主総会の動画配信中

当社は、6月21日に開催した第15回定時株主総会の動画を6月26日～12月25日まで当社ホームページで配信しています。

これは、より多くのみなさまに、当社のこの1年間の取り組みを紹介することを目的として実施しているものです。毎年、多くの方にご視聴いただいている。みなさまも是非ご覧ください。

当社では、今後も株主・投資家のみなさまに向け、より明瞭なメッセージの発信に努めてまいります。



「投資家向け情報」▶「動画・映像で見る」
でご覧になれます。

当社のM2M技術がパナソニック株式会社のリチウムイオン蓄電システムに採用

当社はM2M（機器間通信）技術を用いて、パナソニック株式会社 エコソリューションズ社製【公共・産業用】リチウムイオン蓄電システム向け「遠隔監視・エラー通報機能」を開発しました。本機能は、同システムの稼働状況をネットワーク経由で24時間見守るもので。

東日本大震災以降、非常用電源の設置要望が高まっていることを受け、同システムは東北を中心とする防災拠点への納入が進められています。「もしもの時」の確実な稼動が求められる中、当社はこの機能を通して、安心してリチウムイオン蓄電システムを利用できる、信頼性の高い災害対策環境を広げていきます。



その8 あいえす☆うちの BOSS ボス

人から「よく気が付く」、「よく気配りができる」と言われるよう頑張ってください。

今号の ボス

ESサポート本部
ES業務システム運用センター
中部運用グループ
グループマネージャー
永井俊道



発行元

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

法務部 広報・IRグループ

〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー16F

TEL 06-6377-0100 FAX 06-6377-0833 http://is-c.panasonic.co.jp/

※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。

※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Moveto Delight

ISクローズアップ

2013
07 Vol.31

パナソニック インフォメーションシステムズ

Close Up Now

「垂直統合型」で立ち向かう!
データ爆発時代のIT基盤、
選択は「データベース統合」



TOPICS

第15回定時株主総会の動画配信中

当社のM2M技術が
パナソニック株式会社の
リチウムイオン蓄電システムに採用



あいえす☆うちのBOSS

ESサポート本部
ES業務システム運用センター
中部運用グループ
グループマネージャー 永井俊道



▲ハイエンドマシンにパナソニックISのノウハウをプラス

社長・前川の ちょっと一言 |

「平常心」

アベノミクスに沸いた春から一転、初夏から梅雨の時期には株価の乱高下が続きました。まるで実体経済の強さが本物か試されているかのようです。一方、今年は梅雨とは名ばかりの天候が続き、梅雨入り宣言を撤回する動きがありました。ダムの貯水量不足も懸念されています。

もし「今」から何かを学ぶとすれば「どっしり構える」ことの重要性ではないでしょうか。株価が乱高下しうが、空梅雨だろうが土砂降りだろうが、一喜一憂していては本来大切なを見失ってしまいます。

目をビジネスに転じれば、新しいチャレンジの芽が出てきた頃合いです。この若葉が大きく育つか、根腐れしてしまうのか。どうすることもできない天候に悩むより、雨よけをつけたり、土壤の水はけを良くしたり、考えられる手立てをしっかりと打つことが太陽の光が降り注ぐ夏、ぐんぐん成長させるために必要です。

地道に継続すること、雰囲気にのまれないこと、気を抜かないこと。「今なすべきことをする」というビジネスに必要な構えは、企業の発展、ひいては日本経済の成長にもつながると思うのです。



代表取締役社長 前川 一博
Kazuhiro Maegawa

“垂直統合型”で立ち向かう! データ爆発時代のIT基盤、 選択は「データベース統合」

企業を取り巻くデータ量は増え続ける一方。
システムの処理能力が低下するごとに一時的な増強を繰り返し、
限界を感じている方も多いのではないでしょうか?
実はパナソニックISでも、かつてこうした課題に直面していました。
待ったなしの状態でIT基盤の抜本的改革に迫られ、
たどりついた答えは「データベース統合」。
今号はその取り組みについて詳しくご紹介します!

夜間バッチが終わらない! 求められたのは“桁違い”的処理能力

パナソニックISが長年運用し続けているシステムは、製造業向け大規模基幹システムを中心に、関連会社やサプライヤー、販売網、そして海外拠点をカバーするものです。ここ数年で、これらのシステムにある変化が見え始めました。従来のBtoBからBtoBtoCをカバーするまでにシステムが拡張し、それに伴ってデータ量が150~200%にまで急増したのです。システム間の連携が複雑化したことで負荷も大きくなり、夜間バッチの処理時間やオンラインシステムのレスポンスに課題を抱えるようになりました。しかし、生産・物流を支えるシステムに止まることは許されません。時間との戦いの中、現状を打破する“桁違い”的解決策が求められていました。

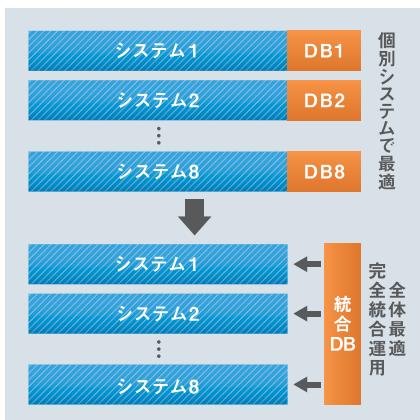
バラバラに運用されていた 8つの基幹システムの統合に挑戦

既にサーバを中心とするITインフラ統合を完遂していたパナソニックIS。次に踏み込んだのが、データベースを核とするミドルウェアの統合でした。目をつけたのは、垂直統合型データベースマシン「Oracle Exadata」。設置してすぐに使える点と、ボトルネックになりやすいデータの入出力性能を格段に向かう点が採用のポイントでした。掲げた目標は3つ。

- ①急増するデータ量に対し、ハイパフォーマンスを確保すること
- ②システム運用を完全統合し、運用品質を改善すること
- ③運用コストを合理化すること



これらを同時に実現することをめざし、個別最適に運用されていた8つの基幹システムの統合に挑戦。2011年春、検証をスタートさせたのです。

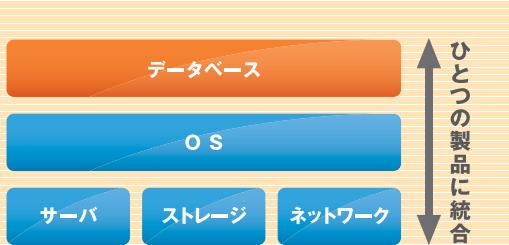


垂直統合型とは?

ハードウェアとソフトウェアを最適に組み合わせ、基本設定を済ませた状態で提供される製品のこと。

製品を自由に組み合わせる従来の構築方式に比べると、ハードウェア、ソフトウェア双方の能力を最大限に引き出すことで、非常に高い性能が得られます。また事前検証や運用段階での手間も省けるため、ビジネスをスピーディに進めるための選択肢として注目が集まっています。

当社が導入した「Oracle Exadata Database Machine」



「Oracle Exadata」と言えど、基幹8システムの統合は決して楽ではありません。これまで同じデータベースでもアプリケーションによって使い方が違ったり、使うデータベースのバージョンが違うなど、アプリケーションによって個別最適に設計されていたからです。

そこで今回、インフラ層・データベース層・アプリケーション層それぞれの知見を結集し、統合後の運用も見越しながら「Oracle Exadata」に最適のルールをつくりました。

まず、これまで各アプリケーション担当が行っていたデータベース運用を、専任チームへ集約し、

ハイエンドマシンにパナソニックISのノウハウをプラス高性能マシンのポテンシャルを十二分に引き出すため、パナソニックISはデータベースの設計・運用まで一本化しました。その工夫を、実際にデータベース統合に取り組んだ社員が語ります。



IDCサービス事業部
グループリーダー
片岡 光康

設計

- 設計段階から統合後の運用を考慮
 - システムの追加修正
 - DR(災害対策)
 - バックアップなど

システム移行

- 独自テンプレートを活用しシステム移行プロジェクトを高効率化
 - Oracle Exadataに最適なルール作り

運用

- 実際の運用ノウハウをもとに体制を整備
 - データベース開発／運用の体制・権限を分離
 - 専任チームへ集約し運用効率化、品質向上

データベースサーバ22台を「Oracle Exadata」2台に集約、

さらに運用工数を60%削減!

パフォーマンスはもちろん、高い運用品質と合理化を同時に実現

複雑に絡み合った個別最適のシステムをひとつずつ紐解き、1年間の検証を経て、本番環境への適用に乗り出したのが2012年4月。最終的には、データベースサーバ計22台を「Oracle Exadata」2台へ集約することができました。このことにより、サーバ維持費用やデータベースソフト保守費用の著しい合理化に成功。

また、運用を専任チームが担当するようになったことで、月にのべ160時間かかっていた運用工数をのべ64時間にまで削減できました。運用品質もハイレベルをキープできるように。当初課題となっていたシステムのパフォーマンスについても、もちろん大幅に改善されました。

アプリケーション部隊も日々の運用業務から解放され、そのパフォーマンスを開発業務に向けて存分に発揮できるようになりました。

パナソニックISは古くから「アプリケーション開発・運用からIT基盤の選定・構築まで、自らの手で進める」というポリシーを貫いてきました。千差万別

あるアプリケーション、そのパフォーマンスを最大化しつつ、インフラを標準化していくという地道な取り組み。これを通じて蓄積してきたノウハウが、今回のデータベース統合でも十二分に活かされたのです。そして今回の統合もまた、その過程そのものが大きな財産となりました。



データベース統合ソリューションの提供を開始

パナソニックISでは、この特集で紹介したデータベース統合をソリューションとしてご提供しています。自らの豊富な経験とノウハウをもとに、お客様の新世代IT基盤構築をサポートいたします。